

はたちの夢

成人代表 吉田 智美さん



本日は、私たちのために、このような盛大なはたちを祝う会を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、お祝いや激励の言葉をいただきました町長様はじめ、ご来賓の方々、さらにご臨席を賜りました多くの皆様に、新成人を代表して、心より感謝申し上げます。

私のはたちの夢は、「地域リーダーとなり地域おこしを行う事」です。現在私は、大学で地域創生を学び、その中でも環境・防災という分野に力を入れていきます。学んでいく中で、「誰も取り残さない防災」を実現したいと思うようになりました。自分がはつきりと夢を掲げることができなくなったのは、この広野町に住

んでいたからだと思います。

私達は、東日本大震災を経験し記憶のある最後の世代です。復興拠点となった広野町。全国からたくさんの人々が集まり作業する姿は、幼いながらにかっこいいと感じました。

また、復興や廃炉問題など地域課題を専門の方々とは話深め合える機会が多かったのは、私にとって大きな糧となり今に活かされています。それに、中学校の時に行ったカナダ研修は、私が外国語をもっと学びたいと思うきっかけにもなりました。

このように充実した生活を送ることができたのは、地域住民の皆様をはじめ、家族や友人がいたからこそです。家族はどんな時も私を支えてくれて私のやりたいことをずっと応援してくれました。そして友人とは切磋琢磨し共に成長し合える存在でした。私はそんな環境にいて本当に幸せです。これからもこの気持ちを忘れず、今度は私たちがそんな環境を作れる大人になれるよう尽力していきたいです。

本日の式でいただいた皆さんの祝福と、今まで私たちが受けてきたすべてのご恩に対し、重ねて感謝申し上げます。成人代表の挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございます。



はたちの夢

成人代表 島村 泰登さん



本日は、成人を迎えた私たちの門出に際し、この様な盛大な式典を開いていただき、誠にありがとうございます。また、お祝いや激励の言葉をいただきました町長様はじめ、ご来賓の方々、ご臨席を承りました多くの皆様に、新成人を代表して心より深く感謝申し上げます。

さて、この度、代表挨拶ということで「はたちの夢」について話させていたたくわけですが、私の夢の構想はまだ発展途上にあるということが正直な所です。思い起こせば小学生の頃には、空手の大会の場でサッカー選手になりたいですとマイクに向かって堂々と発言するほどサッカーが好きだったり中学生になる頃

からはテニスに打ち込みテニスのコーチになりたいと思ったりと、多くの夢を描いてきたと思います。しかし、年を重ねるにつれ、理想と現実の狭間に立つ機会が増え、夢を叶えることの難しさが先にたち、夢を追うことに消極的になっていく自分がいることに気が付きました。はたちとなり、社会に出ることが目前に迫った今では理想を現実のものにしなればならないという岐路に立たされていることを実感しております。

私は現在、大学に通っており、学を深めながら、多くの人の関わりの中で、非常に多くの経験をさせていただいております。不安や悩みもありますが、それすらも経験と捉えることができるほどに毎日が充実しています。今送ることのできている何気ない普通の生活を送っていること、これこそ、はたちの私が思い描く夢です。夢というには大きさに聞こえるかもしれませんが、それは私たちが、当たり前前の生活を送ることの難しさを痛

いほど知っているからこそ描ける夢であると思います。東日本大震災の影響で、当時小学二年生だった私たちは、普通の生活を送ることが困難となりました。あの経験したくなかった、それは誰もが思うことです。

しかし、私たちはあの経験をプラスにとらえて生きていくべきなのだと考えま

す。起きてしまったことを嘆くよりも、あの経験があつて今の私がいる、この考えの方が私は素敵だと思います。

はたちを迎えた私たちは、この先、大人として扱われることが増え、同時に一つ一つの行動に責任が伴ってきます。しかし、今までの生活とすることは変わらないと私は思います。地に足をつけ、背伸びをせず、自分のできることを一生懸命に生きる。確かに、一つ一つの行動に今以上に責任を持つことは重要であり、必要なことです。しかし、それに縛られる、自分の可能性を狭めてしまう事だけはしたくないと考えています。

はたちは一つの節目であり、そこから未来へと向かう再始動の時です。自分の思い描く未来に向かって歩み続けたいと思います。

最後に、この会を開くにあたってご尽力いただいた方々へ、深く感謝を申し上げますと同時に、故郷である広野町の発展に貢献していきたいという自身の強い意志を記し、新成人代表の挨拶とさせていただきます。